

眞岡孝至

1. はじめに

甲賀市の南部にある磯尾地区は近隣の竜法師地区などとともに、近世には山伏集落として栄えた。もともこの地域は比叡山との関係が深く比叡山の開祖傳教大師最澄が開いたと伝えられる天台宗寺院が多い。中世には修験道場として栄えた飯道山も近くにあり修験道と関わりの深い地域であった。本講演では江戸期に里修験で栄え明治期からは薬業を営むようになった磯尾の歴史と文化を概観する。

2. 修験道

修験道は役小角を開祖として葛城山や大峰山など各地の山岳霊場で修行する宗派である。平安時代になると天台、真言の支配を受けるようになり天台系の本山派と真言系の当山派が成立する。鎌倉時代以降修験道は全国に広まり熊野三山、吉野、大峰、白山、出羽三山、石鎚山、英彦山などの霊場が栄えた。戦国時代には山伏は武将に仕え軍師、伝令、諜報活動などにも加わる。山伏による諜報活動は忍者のルーツとも考えられる。この様に幅広く活躍した山伏であるが江戸時初期の慶長18年に徳川幕府により全国の山伏を本山派か当山派のいずれかに帰属させ統括するようになった。同時に全国の霊山の多くが民間に開かれるようになり修験道は大衆化していく。山伏たちは特定の社寺に仕え信者と師檀関係を結び信者への祈祷や配札を行うようになった。これらの人々は修験者として行や加持祈祷を行うが里に住んで妻帯しており代々世襲で受け継がれていた。このような山伏は里修験と呼ばれる。

3. 山伏たちは落ち武者の末裔

修験の旧家の系図や伝承によれば戦国時代までは武士であったが戦国の動乱で落ち武者になり磯尾の地にたどり着いたとといわれている。その後、多賀社、祇園社、栗田尊勝院などに仕え坊人となり里修験を営むようになった。

4. 江戸時代の甲南地域の山伏の活動

里修験者は大峰山や飯道山で修行した後、飯道山岩本院の同行山伏として大峰山に入峰して小笹の宿で正大先達より権大僧都、阿闍梨、大越家などの職位と院号、袈裟が授与されて一人前の山伏となることができた。このとき大先達から授与された証書である補任状（ぶにんじょう）が山伏の旧家にいくつか残されている。山伏たちは多賀社、祇園社、愛宕社、稻荷社、鞍馬、熊野社の坊人として各地の信者をまわり配札や加持祈祷をおこなっていた。磯尾の山伏は代々成就院、教学院、仙寿院、北之坊、